

第7回

まちなみデザイン賞

選集

<主催>

名古屋市（住宅都市局都市計画部ウォークابل・景観推進課）

電話：（052）972-2732

電子メール：machinami@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

<共催>

景観整備機構 公益財団法人 名古屋まちづくり公社

<協力>（50音順）

愛知県広告美術業協同組合

一般社団法人 愛知広告協会

一般社団法人 日本建築学会 東海支部

一般社団法人 日本建築協会 東海支部

公益財団法人 名古屋観光コンベンションビューロー

公益社団法人 愛知県建築士事務所協会

公益社団法人 愛知建築士会

<発行>

令和7年9月

 名古屋市

目次

概要	2
挨拶	3
第7回まちなみデザイン賞受賞物件	
たけなか外科内科こどもクリニック	5
徳川町にある 東海メディカルプロダクツ ゲストハウス	6
名古屋市国際展示場 第1展示館 及び コンベンションセンター	7
ant.	8
GOOD CYCLE BUILDING 001 浅沼組名古屋支店改修PJ	9
笠覆寺（笠寺観音）	10
KUBO-BLDG	11
第2名古屋三交ビル	12
あつたnagAya	13
コウノミ BASE	14
2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK	15
まちなみデザイン賞 トロフィー	16
まちなみデザイン賞 位置図	17
まちなみデザイン賞 受賞物件（第1回～第6回）	19
コラム	20

名古屋まちなみデザインセレクションとは

名古屋まちなみデザインセレクションは、市民の皆さまに名古屋のまちの景観について誇りと愛着を持っていただくことを目的に、平成24年度から実施し、良好なまちなみの形成に寄与していると認められる建築物等を「まちなみデザイン賞」として市長が表彰しています。

第7回は、新たにリノベーション部門、ウォークابل部門の2部門を加え、建築物・工作物部門、サイン・屋外広告物・屋外看板部門、まちづくり活動部門の5部門について、物件やまちづくり活動を募集し、応募物件等の中から、有識者の意見を踏まえて市長が選定しました。

〈応募期間〉
令和6年9月2日(月)から11月29日(金)まで

〈応募数〉
86件
建築物・工作物部門 30件 / リノベーション部門 14件 / ウォークابل部門 15件
サイン・屋外広告物・屋外看板部門 18件 / まちづくり活動部門 9件

〈表彰式〉
令和7年11月13日(木)13時から 会場：名古屋能楽堂

〈名古屋まちなみデザインセレクション有識者懇談会委員〉(50音順、敬称略)

佐藤 直木	愛知県立芸術大学美術学部 教授(グラフィックデザイン)
高井 一	元東海テレビアナウンサー(文化・ウォーカー)
武田 美恵	愛知工業大学工学部建築学科 教授(建築)
出村 嘉史	岐阜大学社会システム経営学環 教授(土木・ランドスケープ・都市形成)
松浦 健治郎	千葉大学大学院工学研究院建築学コース 准教授(都市計画・ウォークابل)
村上 心	椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科 教授(建築)

名古屋まちなみデザインセレクション シンボルマーク

名古屋市の市章「八」をモチーフに、八角形のデザインとすることで名古屋らしさの新たな表現としています。名古屋のまちへの誇りと愛着のシンボルとして長く愛されるようなタイムレスなマークをデザインしました。





名古屋市長
広沢 一郎

第7回名古屋まちなみデザインセレクションによせて

リニア中央新幹線の開通後を見据え、名古屋の未来につながるまちづくりを積極的かつ戦略的に展開することで、大都市・名古屋の魅力をさらに高め、人々を惹きつけられる都市力を強化していくことが重要です。そのため、都心部や地域拠点のまちづくりを進めていく際には、地域の方々や民間企業の皆様の自発的な創意工夫によるまちの魅力やにぎわいを生み出す取組みをしっかりと応援し、居心地が良く「もう少し先まで歩いてみたい」と思えるような、ウォーカブルなまちづくりを進める必要があります。

本市では、令和6年3月にその方針を示した「Nagoyaまちなかウォーカブル戦略」を策定しました。本戦略では、名古屋の強みである豊かな公共空間や民有地を公民が連携して活用することにより、人々の出会いや交流を生み出すことや、既存建築物の低層部を地域の賑わいに寄与する場に改修することによりまちの価値を高めることを目指しています。

これらウォーカブルに資する積極的な取組みを波及させるために、まちなみデザイン賞では「リノベーション部門」と「ウォーカブル部門」を新設し、セットバックや低層部の解放がすばらしく、新しいまちづくりの核となる物件が評価されました。

今回は、延べ86件もの多くのご応募をいただき、市民や事業者の皆様による景観形成への積極的な姿勢を拝見することができました。選考にご尽力いただいた委員の皆様、ご協力いただいた関係団体の皆様に、心より感謝申し上げます。

今後も、市民の皆様が名古屋のまちの景観について誇りと愛着を持っていただけるようなまちづくりを推進してまいります。



有識者懇談会 座長
村上 心

まちなみデザイン賞 座長総評 一時間のデザイナー

建築や都市空間を考える際には、「時間のデザイン」を意識することが重要です。建築や都市空間は、人や社会とともに変化し、記憶され、再生されていくものです。これらは単なる物理的な構造ではなく、地域の個性や資源を文化的・社会的価値として捉えることで、長期的に持続可能な「まち」としての姿を築いていきます。

今回、受賞した11件は、名古屋の「時間のデザイン」に寄与する優れたものです。地域の歴史や文脈に寄り添いながら、新たな価値を生み出したもの、地域の資源を見事に再生（リノベーション）したもの、そして回遊性や賑わいを創出し、まちとまち、人とまち、人と人のつながりを生み、ウォーカブルなまちづくりに貢献したものです。

また、大規模なものから小規模なものまで、さらには、単体としての貢献にとどまらず、地域への波及効果をもたらすものなど、さまざまな視点と手法による優れた取り組みがみられました。その結果として、受賞物件の建築行為の規模や範囲が多様であることを、市民の皆さまにも感じていただけることでしょう。

惜しくも受賞には至らなかった物件も、名古屋の景観形成への意欲的な貢献が認められました。このような官民の取り組みが、今後も広く、そして継続的に行われることで、名古屋のまちなみや景観が、市民の皆さまにとって誇れる存在となることを願っています。

建築物・工作物部門

たけなか外科内科こどもクリニック

所有者	医療法人 藍靖会
設計者	TSCアーキテクト 代表 田中 義彰
完成時期	2019年1月
概要	診療所：地上2階、鉄骨
所在地	北区金城町



1,2,3 撮影者：ToLoLo studio

講評
1950年代頃から市街化され、店舗・工場・住宅等が混在する北区金城町のまちかどに建つクリニックである。まちかどに対して全面ガラス貼りのファサードと木製の大きな庇が特徴的である。このデザインはL字状の2層の待合スペースを交差点沿いに設けたことにより可能になったものである。交差点近くの足下に木製ベンチが設置されているなど、街の縁側のような佇まいが随所に見られ、まちなみデザインとして秀逸である。

松浦 健治郎

建築物・工作物部門

徳川町にある
東海メディカルプロダクツ ゲストハウス

所有者	筒井 宣政
設計者	株式会社 宇野友明建築事務所
完成時期	2021年9月
概要	主屋：地上2階、木造※1 屋敷門：地上2階、木造
所在地	東区徳川町



1 撮影者：萩原 ヤスオ

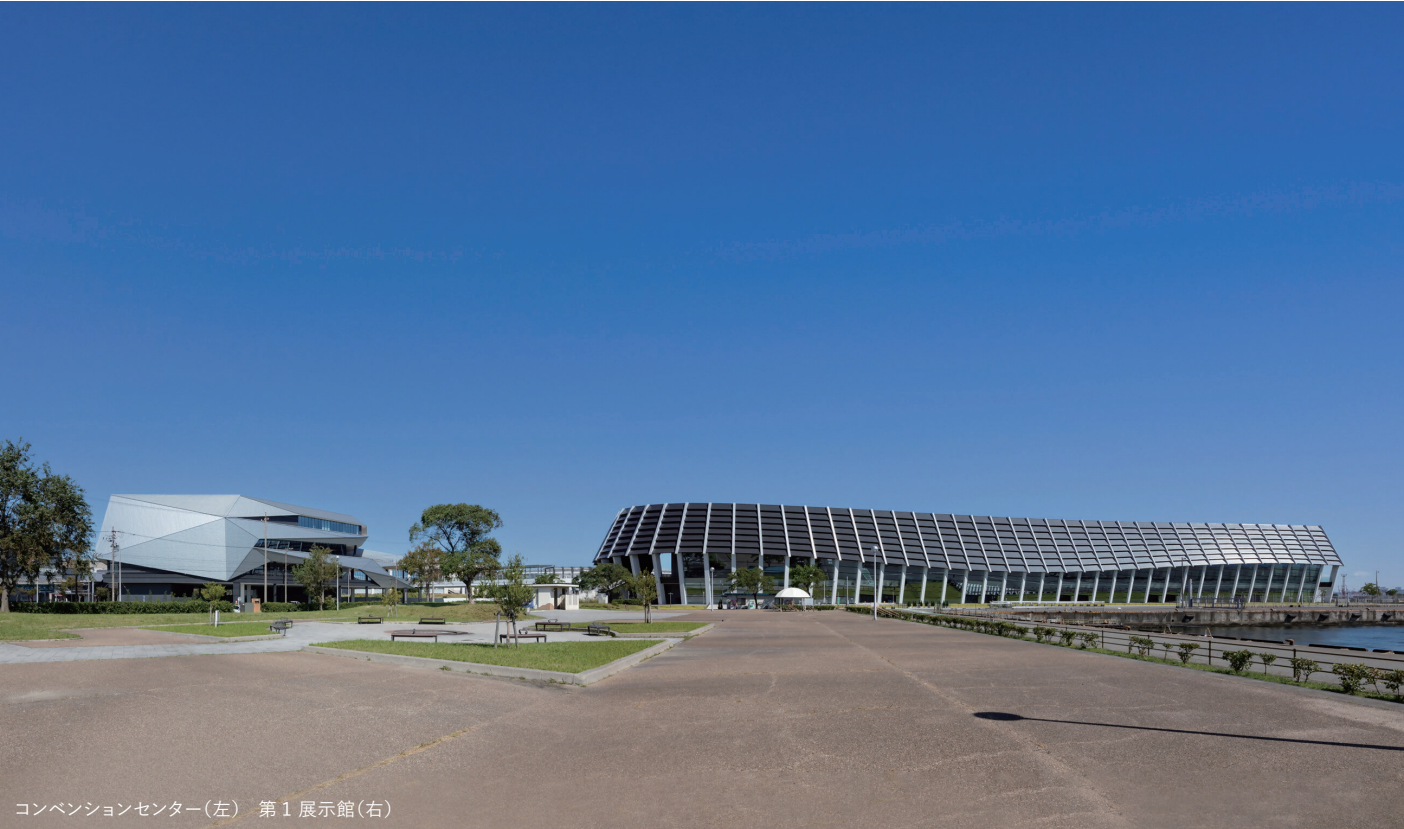
講評
重厚感のある一枚板で構築された堂々たる木組みの門と、伝統的な日本家屋の慎ましやかな様式が色濃く残された中央の主屋との対比が目を引くゲストハウスは、歴史・文化の残る徳川町のイメージに添いながら、全く新しい景観を生み出している意欲的な木造建築物となっている。今後長い年月をかけて木材が経年変化して行くにつれて、この建築はいよいよその価値と美しさを増していくだろう。

佐藤 直木

※1 主屋は、所有者の父親が昭和21年に建築し、所有者が父親の思いとともに継承し守り続けている。戦前、宮内庁が御用邸を建築する目的で木曽地方等の御料林から集めていた木材を、戦況悪化から御用邸の建築は見送られ、所有者の父親がその一部を取得、市内の空襲に逃れたものであると伝えられている。

名古屋市国際展示場
第1展示館 及び コンベンションセンター

所有者	名古屋市	コンベンションセンター
第1展示館		
設計者	久米・竹中設計共同体	竹中・久米共同企業体
完成時期	2022年6月	2022年8月
概要	展示場：地上3階、鉄骨造	集会場・飲食店：地上5階、鉄骨造
所在地	港区金城ふ頭三丁目	港区金城ふ頭二丁目



コンベンションセンター(左) 第1展示館(右)



コンベンションセンター



第1展示館

講評

無機的な雰囲気金城ふ頭にあって、〈第1展示館〉は柔らかな曲線が暖かみを発散している。海に面して優美な曲面を描くコンコース側は、巨大な建物なのに波の揺らぎが見えるよう。港のガントリークレーンはまさに借景。向かい合う〈コンベンションセンター〉は鋭角な多面体で、誰もがクルーザーを連想する。〈第1展示館〉の波間にデッキを介して係留されているようだ。この対照的な空間にどんな賑わいが生まれるか楽しみだ。

高井 一

ant.

所有者	大脇 篤史
設計者	株式会社 S.A.S.archi
完成時期	2022年3月
概要	店舗：地上2階、木造
所在地	西区幅下一丁目



1,2,3,4 撮影者：ToLoLo studio

講評

ささやかなかわい建物が、堀川の護岸に溶け込むように建っている。ヘアサロン空間をどう作るのかは私的问题ではあるが、オーナーとデザイナーが一緒になって、一つの空間に趣味のセンスを編み込むことを楽しんだことが、建物に入ると一見して伝わってくる。そしてそれは外へ開いている。堀川と一体化するような気持ちの良いテラスで楽しむ姿は、橋や対岸までも楽し気にしてくれる。こうやって水辺のまちなみができていくといい。

出村 嘉史



GOOD CYCLE BUILDING 001

浅沼組名古屋支店改修PJ

所有者	株式会社 浅沼組
設計者	株式会社 川島範久建築設計事務所 + 株式会社 浅沼組
完成時期	2021年9月
概要	事務所：地上8階地下1階、鉄骨造
所在地	中村区名駅南三丁目



1,2,3,4 撮影者：鈴木 淳平

講評

スクラップ&ビルドという従来の都市計画の在り方から脱却しようとしたこと、追加材料を土や木などの自然素材としたこと、自然素材と人工素材とを分離可能なように設計することでいずれ「土に還る建築」を目指したこと、そしてそれらの試みが美しい造形として達成されていること、全てに拍手を送る。吉野杉の列柱、土壁のプランター、緑豊かな植栽、セットバックされた正面ファサード等々によって、地域の景観形成に資する独自性豊かなビルとなった。

佐藤 直木

笠覆寺（笠寺観音）

所有者	笠覆寺
設計者	零三工作室、堀内建築研究所
完成時期	2022年8月
概要	寺院：地上2階地下1階、鉄骨造一部RC造（既存本堂：地上1階、木造）
所在地	南区笠寺町



1,2,4 撮影者：高橋 直哉 3 撮影者：吉川 政春

講評

お寺のリノベーション。現地を見て得心した。本堂を耐震化。そして本堂へのスロープにあった段差を解消して、完全バリアフリーに。安全、スムーズなお参りが可能になった。新しい護摩堂と信徒会館も、境内と調和している。ここは節分をはじめ、「六の市」や「マルシェ」で定期的に賑わうところ。リノベーションですっきりした境内は、より快適な市民の集いの場になりそうだ。

高井 一

KUBO-BLDG

所有者	株式会社 ライフプランニング
設計者	株式会社 シーラカンサンドアソシエイツ
完成時期	2024年6月
概要	店舗：地上4階、鉄筋コンクリート造
所在地	中区栄三丁目



1,2,3,4 撮影者：ToLoLo studio

講評

同じサイズ感のRC建築が並ぶうちの1棟の改修である。左右に並ぶ明度を抑えたファサードに対して、明るい色調を選択しているが、RC柱梁フレームの努めてシンプルな素材感と、抑えめの鮮やかさをまとった非対称オーバルが、周囲にリズムを与えた。さらに、このフレームが建築内外の緩衝空間として働き、閉鎖性が払拭されている。耐震のために付加せざるを得ない要素を、前向きなコンテキストへ読み替えるデザインが功を奏している。

出村 嘉史

第2名古屋三交ビル

所有者	三交不動産株式会社
設計者	株式会社 竹中工務店名古屋支店
完成時期	2024年2月
概要	事務所・店舗：地上14階地下1階、鉄骨造
所在地	中村区名駅三丁目



1,2,3 撮影者：株式会社 toha 4 撮影者：株式会社 エスエス

講評

屋外の公開空地である敷地内歩道に配した高木が歩行者に涼やかな木陰を創り出すとともに、屋内にも屋内型公開空地として「MUQUA(ムクア)」と名付けられた滞在空間が設けられている。見学した際も木製のモニュメントベンチに腰掛けてくつろぐ女性たちや、テーブル席で仕事するワーカーがいた。名駅三丁目のまちづくりの一環として開催されるイベントによって市民のコミュニティの場となり、名古屋駅から続く道の整備によって歩いて楽しい街が実現するに違いない。

武田 美恵

あつたnagAya

所有者 名古屋鉄道株式会社
設計者 エイトデザイン株式会社
デザイン 株式会社 Tailors
完成時期 2024年12月
所在地 熱田区神宮三丁目



講評
＜あつたnagAya＞のロゴマークの“A”をあえて大文字にしており、軒を連ねる長屋づくりの屋根形状を表現している。また、熱田神宮の森を有する緑豊かなエリアであることを、伝統・文化をイメージした深さや温かみを感じられる暗緑色によって表現している。空間としても、神宮前駅との連続性を考慮した木材架構と“A”の形をした屋根だけのつなぎ空間が開放的で風通しのよい休憩場所になっており、貯木場のあった熱田の歴史を愛知県産材の使用によって見事に表現していた。

武田 美恵

コウノミ BASE

所有者 合資会社 ミート
デザイン 合資会社 ミート
完成時期 2019年7月
所在地 西区香呑町



撮影者：ToLoLo studio

講評
DIY可能なアパート。大家も加わり住人の交流も盛ん……落語の長屋噺のような日常が目につく。そんなアパートの壁面には、★余分なものはいらない！★暮らしにアートを！★笑顔と食を大切に！屋間でも目を惹くのに、夜はライトアップしてさらに存在感を増す。アパートの住人だけでなく、ここを通る町内の人にも「暮らし方」の基本をアピールしていた。

高井 一

2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK

活動団体	2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK
概要	小冊子“AKIYA LOOK BOOK”を起点に、個性的な人々が市場や長屋を再生し、“金城夜市”等の催しが、人と人のつながりを生み出している。
活動エリア	北区清水 他
活動拠点	金城市場



講評
北区清水・大杉エリアに眠る空き家・空き店舗の魅力と可能性を発掘し、地域資源として可視化した＜2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK＞は、専門家と住民が協働し、調査から冊子制作、利活用提案まで一貫して行った点が高く評価される。＜2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK＞で紹介されている金城市場を訪れたところ、最低限の改修を施すことで市場本来の大空間が再生されており、新たな利用法の可能性を大いに感じさせてくれた。

松浦 健治郎



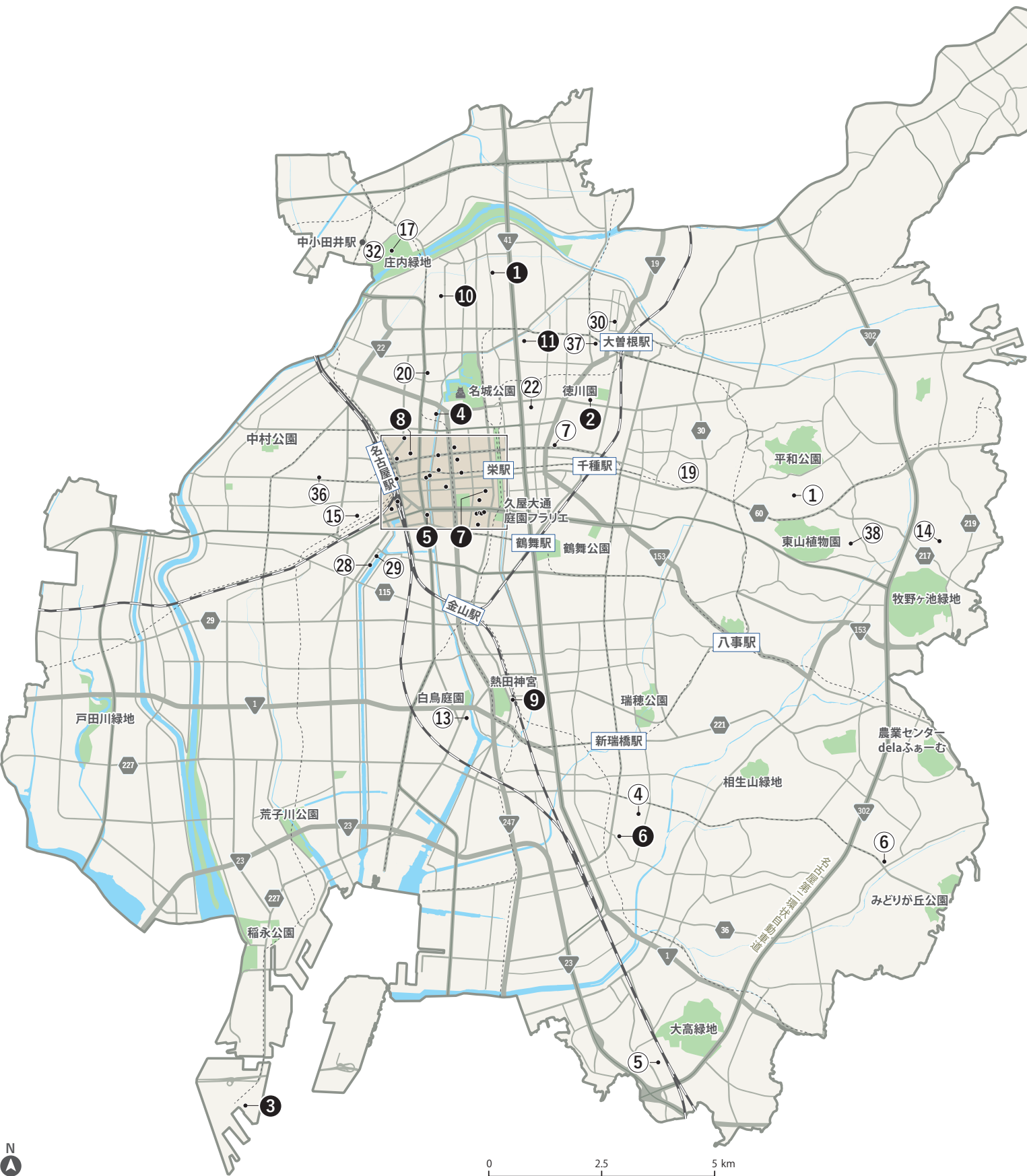
撮影者：rakuda

まちなみデザイン賞 トロフィー

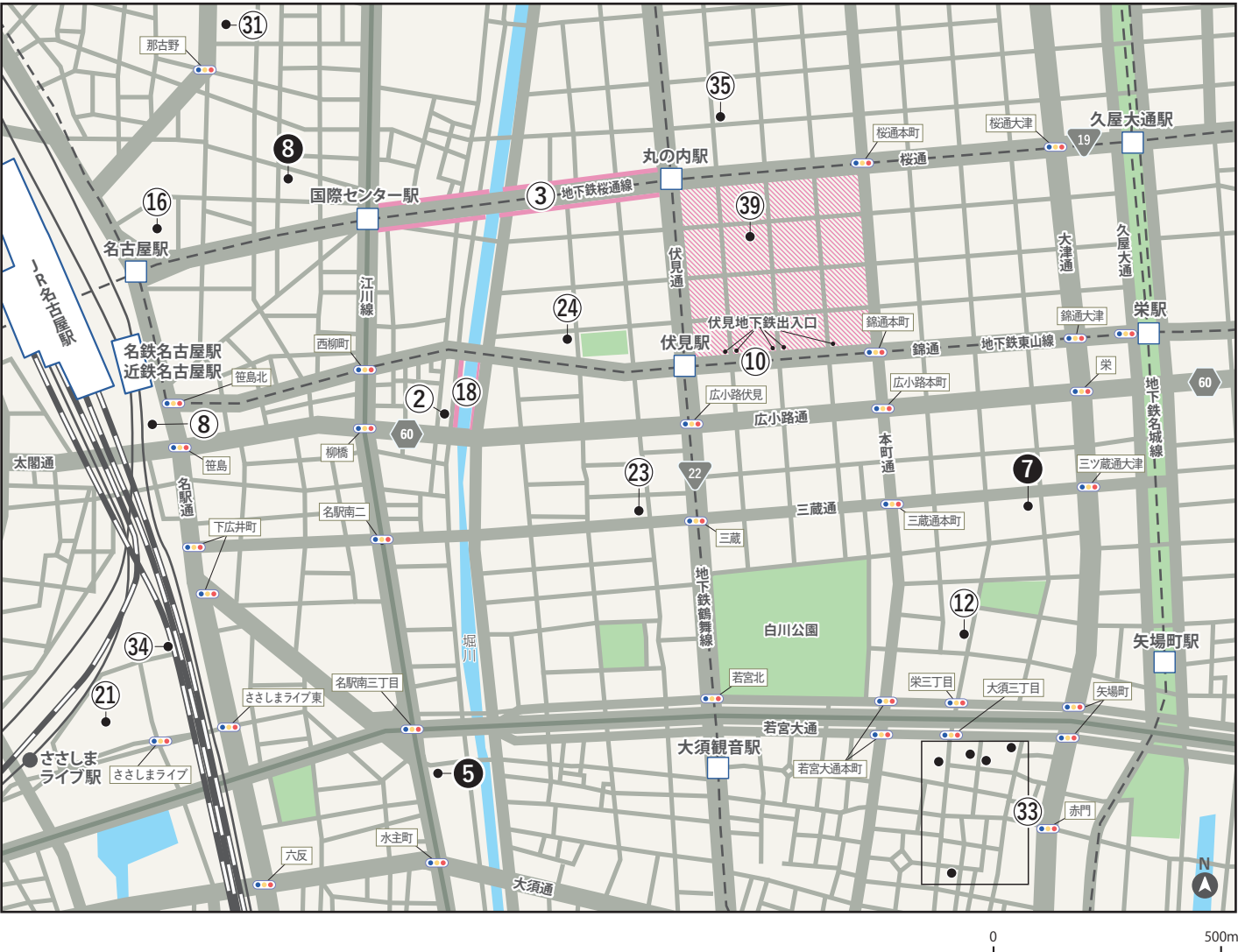
名古屋市長の表彰するまちなみデザイン賞にふさわしいトロフィーとすべく、名古屋市の伝統工芸技術を活かしたいと考えました。「箔蒔」と呼ばれる漆塗の技法を用いて全面に施された金箔の輝きがまちなみデザイン賞の受賞を讃えます。このトロフィーを目にするたび、これからも名古屋市の都市景観について想いを寄せていただけたら幸いです。

デザイン：愛知県立芸術大学准教授 望月 未来
製作：株式会社 大黒屋仏壇店

まちなみデザイン賞 位置図



- ① たけな外科内科こどもクリニック
 - ② 徳川町にある 東海メディカルプロダクツ ゲストハウス
 - ③ 名古屋市国際展示場 第1展示館 及び コンベンションセンター
 - ④ ant.
 - ⑤ GOOD CYCLE BUILDING 001 浅沼組名古屋支店改修PJ
 - ⑥ 笠覆寺（笠寺観音）
 - ⑦ KUBO-BLDG
 - ⑧ 第2名古屋三交ビル
 - ⑨ あつたnagAya
 - ⑩ コウノミBASE
 - ⑪ 2020 NAGOYA AKIYA LOOK BOOK
- ① から ③⑨ の物件名は、P19に記載しています。



まちなみデザイン賞 受賞物件（第1回～第6回）

第1回 (2013年)	① 東山の森「里山の家」と「くらしの森」 ② 納屋橋 CUBES ③ 桜通のイチョウ並木 ④ 村上社のクスノキ ⑤ 総合病院 南生協病院 ⑥ ヒルズウォーク徳重ガーデンズ、交通広場・テラス広場及びユメリア徳重
第2回 (2015年)	⑦ 太洋ビル ⑧ ナナちゃん人形 ⑨ 公共空間の利活用を通じたまちづくり社会実験 ⑩ 伏見地下街出入口・長者町ブループリント ⑪ 旧南大津通三丁目の小路 ⑫ BLUE BLUE NAGOYAの建物の緑化 ⑬ 愛知時計電機株式会社 新事務棟
第3回 (2017年)	⑭ 高針の丘にある蓮教寺 ⑮ 米野ふれあいサロン「なかよし」－ 寛家住宅 ⑯ 大名古屋ビルヂング ⑰ 緑豊かな庄内緑地の朝 ⑱ 堀川散歩 錦橋から納屋橋 ⑲ 個性的なお祭りやお店で活気づく覚王山
第4回 (2019年)	⑳ LT城西2 ㉑ グローバルゲート ㉒ 料亭か茂免の白壁 ㉓ 印傳屋名古屋御園店のサイン ㉔ ランプライトブックスホテル名古屋のサイン ㉕ SOCIAL TOWER PROJECT ㉖ 名古屋折り紙建築 ㉗ 街茶 MACHI-CHA
第5回 (2021年)	㉘ 中川運河にぎわいゾーンの建築物群 バーミキュラ ビレッジ ㉙ 中川運河にぎわいゾーンの建築物群 岡谷鋼機株式会社 中川配送センター ㉚ ソーネ ŌZONEのサイン ㉛ なごのキャンパス ㉜ 中小田井を「発見して、学んで、伝えよう」
第6回 (2023年)	㉝ 大須の一連のテナント・オフィス HASE-BLDG. ㉞ ささしま高架下オフィス ㉟ タマディック名古屋ビル ㊱ みんなで駄菓子屋(仮) ㊲ 大曽根外科・整形外科のサイン ㊳ ニシヤマイパシヨラボ ㊴ 錦二丁目まちづくり協議会

⑨ ⑪ ㉕ ㉖ ㉗ は、P17位置図に掲載しておりません。
第1、2回は、「まちなみデザイン貢献賞」
受賞物件の位置や概要は、市公式ウェブサイトでご覧いただけます。



コラム

空間の再生(リノベーション)

ハロルド・ブルームという米国の文学者がいます。彼は、詩人の創作は常に先駆者の詩に影響されており、詩という存在は影響の不安そのものである、と主張するのです。彼は又、詩人を「ストロング」な詩人と「ウィーク」な詩人に分類します。「ストロング」な詩人とは、先駆者の影響の不安を克服して新しいイメージや概念を提示している者達を指しています。従ってブルームにとっては、「有名な」詩人が必ずしもストロングな詩人であるとは限りません。

「再生(リノベーション)」という建築行為をブルームの枠組を借用して考えてみましょう。建築家達は常に影響の不安に脅えているとすると、彼らはどうやってストロングな建築家たろうと行動するでしょうか。先駆者達のスタイルの呪縛から解放されたい、と考える建築家たちは、周辺に先駆者達の足跡である既存の建築物がない更地に自分のオリジナリティを存分に発揮したデザインを施すのが楽だと考えるかもしれません。しかしながら、「残念」なことに、稀にある「幸運な」プロジェクトを除けば、建築家は常に周辺の街並み或いは歴史の読み取りを要求されます。又、「幸運」にも敷地として全くの更地を与えられたとしても、地球が創り上げた自然環境の考慮が求められます。万が一、以上のような環境の読み取りを省略したとしても、先人の建築作品や技術の影響は確実に建築家を覆っています。即ち、建築行為とは、地球自身を含めた先駆者達の足跡の読み取りと共に存在しているものなのです。この足跡が最も具体的に表出する建築行為が「再生」であると言えるでしょう。つい最近まで、我が国での再生に対する業績評価は決して高いものではありませんでした。モニュメンタルでスペシャルな新築のデザインこそが「優れた」建築であるとされてきたのです。対して欧米では、再生という建築行為も新築と同等に、或いはそれ以上に評価されています。再生でオリジナリティを発揮するという成功こそが、ストロングな建築家であるという証明なのです。

勿論、都市は、新築／再生の両者が混在して成立するものです。今回から、「名古屋まちなみセレクション」にリノベーション部門が加わったことは、この対等な混在を積極的に評価しようというもので、呼び掛けに応じて多くの優れた御応募を頂きました。再生行為による優れたまちなみの継承と生成の為に、リノベーション部門の大いなる役割が期待されます。

村上 心

コラム

歩きたくなる名古屋へ～“もう一歩先”を生み出すウォーカブル空間の力

今年度のまちなみデザイン賞では、令和6年3月に策定された『Nagoyaまちなかウォーカブル戦略』を踏まえて、歩行者が「もう一歩先へ」と感じられるようなウォーカブルな空間づくりを重視しました。今回、ウォーカブル部門で選定された第2名古屋三交ビルでは屋内外に配された有機的な形状のベンチが印象的で、大きな開口部を持つ屋内型公開空地では仕事や休憩など多様なアクティビティを確認できました。受賞作品以外でも、都心の公開空地や民有オープンスペースに生まれたテーブル・椅子・パラソルのあるテラス、定期的に開かれるマルシェやキッチンカーのイベントは、単なる通過点だった道を、人と人が交わるサードプレイスへと変えつつあります。こうした試みは、デザインが形や色彩の美しさに留まらず、使われ、愛され、時間とともに成熟するプロセスそのものに価値があることを示しています。受賞を契機として、市民が主体となった歩きたくなる名古屋の風景づくりがさらに広がることを期待します。

松浦 健治郎



コラム

公共が担うデザイン

この度、地下鉄千種駅の出入り口がノミネートされていたことは、意義深かったと思います。対象は、特に興味を持たれることも少ないのですが、本来、歩く動線の要となるべき構造物です。こうした構造物が、まちなみの中で気持ちのよい空間を提供しているかどうかは、もっと留意されてよいと思います。ところが、施設整備の現場において、機能確保、安全性、経済性(極力お金をかけないという意味で)が支配的な価値観であることが多く、快適さ、楽しさ、文化性を求めて自ら企画し、管轄を跨いで調整を繰り返して実現することは、必要以上に労力のいる仕事になってしまっています。そのような中、今回は、駅改修の機会に乗じて、担当周囲でまちなみの風景を創ろうと大変な努力をされたことが想像できます。惜しくも受賞対象にはならなかったものの、こうしたデザインのブラッシュアップが、逆風の中でなく、市民の期待の中でされていくことを切に願います。

出村 嘉史

